

群馬県明和町議会視察来訪
議会中継を研究



1月24日、群馬県明和町議会議会運営委員会の方々が議会のインターネット中継について視察にみえました。ライブ中継の経費や録画配信、スマホ・タブレット対応の状況について土井秀敏議会運営委員長が説明をしました。その後、多古町の初期導入費が低い理由、アクセス数等についての意見交換があり、アクセス数の向上はどこの議会においても共通の課題と再認識しました。

宮城県色麻町議会視察来訪

こども園・道の駅を視察

2月9日、宮城県色麻町議会総務教育常任委員会の方々がこども園の運営、国際交流事業、道の駅の運営について視察にみえました。こども園では園長の説明で施設見学を行ったほか、生涯学習課長から国際交流事業の概要説明、産業経済課長から道の駅の概要説明を行いました。その後、道の駅を視察されました。色麻町では幼保一元化のこども園の設置計画はまだないとのことでしたが、多古こども園の施設、規模に質問があり関心の高さが伝わってきました。



空港周辺三町空港対策特別委員会

内窓の効果を体感

3月23日、空港周辺三町空港対策特別委員会正副委員長会議が芝山町にある成田空港地域共生・共栄会議事務所で開かれました。会議の前にNAAが設置した内窓効果体験ハウスを視察しました。この体験ハウスは、空港周辺地域にある住宅の寝室に防音工事を実施した場合の防音効果が体験できるというものです。防音アルミ製サッシと樹脂製サッシの二重サッシの開閉によってその効果を体感すると共に、測定器での数値も確認しました。



傍聴しました

希望が持てる町づくりを期待して



(60代・女性)

議場には非日常的な空気が漂い、一瞬、身が引き締まりました。男女共同参画推進プランの策定により、今後は誰もが住みやすい、希望が持てる町づくりの推進が期待されます。町の取り組みはと期待して答弁を聞きましたが、あまりよく解りませんでした。男女共同参画が町民の意識に浸透していないことも確かですが、それを盛り上げ、牽引していくのも行政の仕事だと思います。空き家対策、道の駅のイベントやレストランも気になるそうです。

【武藤 鑑さん・由紀さん】
高津原在住、44歳・41歳。平成24年から一人ひとりの笑顔を大切にしたいサービス事業所「木もれびの家」を運営。



多古町にお住まいの「その道」をひた走る方々にお話しを伺ってみると、そこには新しいまちづくりや町を元気にするヒントが...!!

みんな笑顔になって帰れたらいいね!

— お客様と家族のちょうどよい距離感をお手伝い

～移住・介護サービス事業者 武藤 鑑さん・由紀さん



「木もれびの家」の名称は「ほんわりと陽がさす温かな場所」になればと娘さんから贈られたもの。

どうして多古町に??

飛行機が見えるから!!(笑)。それとみどりが多くてゆつたりとした景観に「こんなところで生活したいなあ」って。

移住してみてもいい??

住みやすいですよ。教育や子育ての環境はいいですし、全てが近くにまとまっているコンパクトな町。お互いの顔がみえるから安心できます。

なぜデイサービスをはじめよう??

勤めていた介護事業所のお客様への対応と、自分の思いとのズレが大きくなって、「絶対、自分で事業所を立ち上げるぞ!」って(笑)。介護の仕事は「自分が歳を重ねた時どうしてほしいか」が大事だと思います。他にないですよ、楽しい雰囲気の中で話しをして、しかも感謝される仕事なんて(笑)。それで、7年がかりで主人を説得して、5年前開業にこぎ着けました。

ご夫婦一緒にの仕事はどう??

いいですよ。夫婦の姿が変わりました。お互い助け合える存在でしょ。うちの事業所、主人のファンが多いの(笑)。自分の辛い経験から、お客様の気持ちに寄り添えるのかな。それにお話しを聞いてほしい息子さんを投影しているのかも。元々は職人の主人が作る食事大好評です!

高齢者福祉の観点から、町に望む支援は??

町の行政、包括支援センターは応援してくれませんが、国の介護施策には改善を望むことがあります。度重なる報酬改定、法改正に小規模事業所が対応していくのは非常に厳しい状況です。

この仕事で大切に思うことは??

お客様と家族、サービス提供者のちょうどよい距離感を大事にしたいです。家族には吐露できない思いをここで一旦空っぽにして、笑って家族のもとへ帰る。家族もお客様への煮詰まった思いをここを利用してもらうことでリセットできたらいいなと。「それでいい」と自分を認めてくれる場所が必要ですよ。人としてどう生きていきたいか。そこですよ!!「最期は天晴れ」で人生終わりたいじゃないですか。

~interviewer's eye~
「最期はあっぱれで!!」温かな笑顔で語る彼女の一矢が頭から離れない。誰にも平等に訪れる「老い」を抗い、あわよくば避けたいと思う自分にこの言葉は鮮烈に刺さった。介護される側は家族に「申し訳ない」「長生きしなければ…」と肩身の狭い思いを溜め込んでいるそう。自分もその立場になったらきつとそうだろう。だからこそ「ため込んだ思いを空にできる場所」が必要であり、それこそが「介護サービス」なのだ。武藤さんには介護に伴うネガティブなイメージや陥りがちなマイナス思考をポジティブな笑顔に変える大きなエネルギーがある。インタビューを終える頃には、「老いるショック」もまんざら悪くないと思えてきたから不思議だ。(勝又 一徳 委員長)